史跡
国指定

延暦寺境内（えんりゃくじけいだい）

大津市坂本本町　昭和9年3月13日指定

湖西南エリア
滋賀県

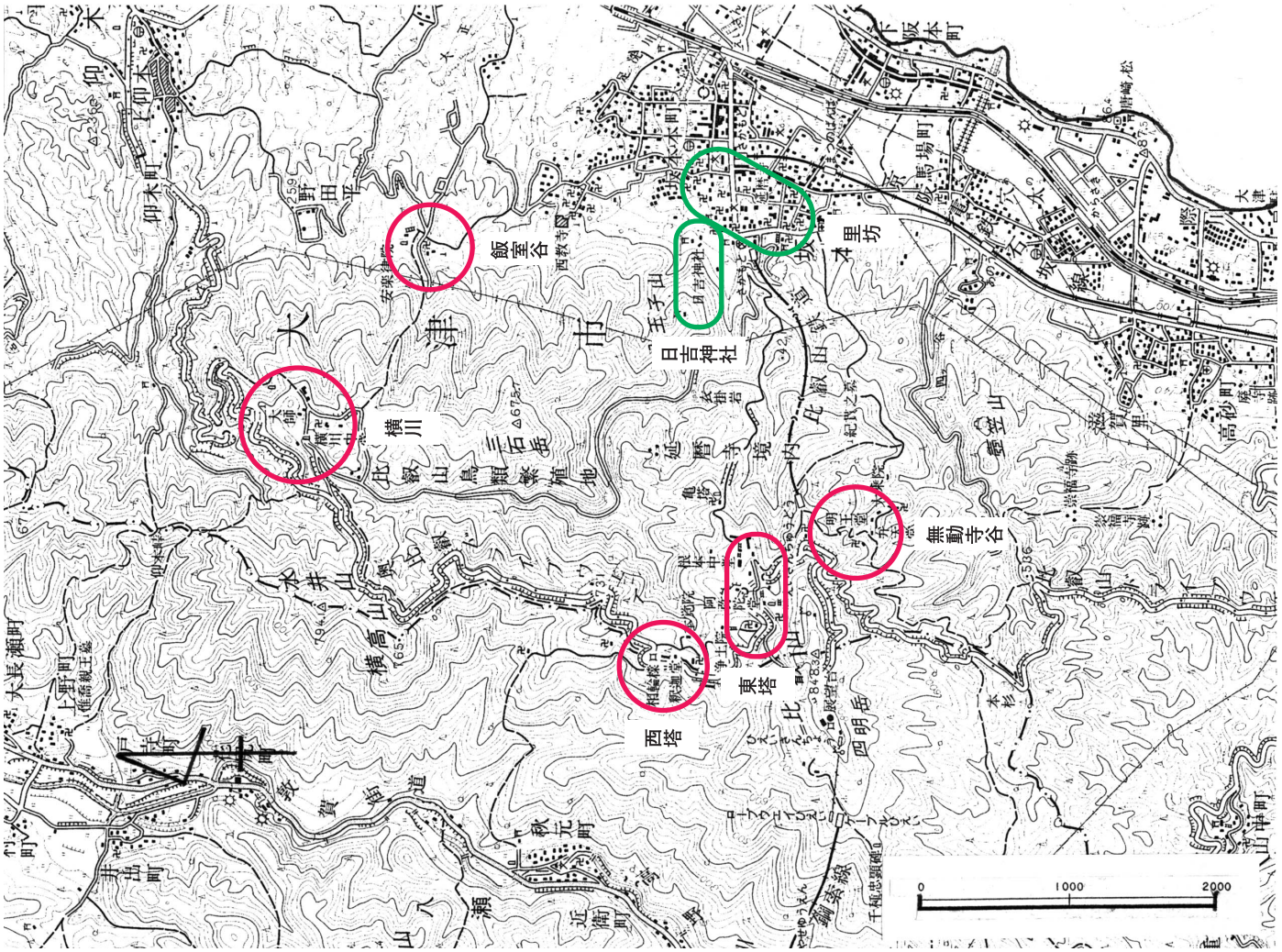
延暦寺は天台宗の総本山として、また、王城（京都）鎮護の寺院として、さらに日本の宗教史上最も重要な位置を占めている寺院として、政治、文化の面へも大きな影響を与えてきました。法然、親鸞、日蓮、栄西、道元、一遍など優れた宗教者がここで修行をし、それぞれの宗派を起こし、今に伝わっています。

当時のできごと	
785年	大伴家持没す
806年	空海　真言宗を伝える
1634年	長崎に出島を築き外国人を移す

延暦寺の歴史

延暦寺は、延暦4年(785)に伝教大師最澄が、比叡山中に庵を結び、3年の後、薬師如来を祀り、「一乗止観院」と名付けたのが始まりとされ、「比叡山寺」と呼ばれていました。最澄は従来の南都仏教とは異なる天台の教えを確立し、そして旧仏教界から自立するため、東大寺の戒壇とは別に、比叡山中に独自の戒壇を設けることを願いましたが、延暦25年(806)天台法華宗が公認されたものの、戒壇の設立には至らず、弘仁12年(822)6月失意の内に没します。しかし、没後7日目、念願の戒壇建立の勅許がおり、翌年「延暦寺」と改称され、現在に至っています。

一般に、叡山3000坊といわれる3塔16谷の堂塔が整備されるのは10世紀の半ば、第18代座主、元三大師良源の時です。元亀2年（1571）織田信長の焼き討ちにより堂塔のほとんどを失いますが、豊臣秀吉、徳川家康などにより再興され、現在見られる寺観に整備されました。史跡に指定されているのは、無動寺谷、東塔、西塔、横川、飯室谷の地域です。



延暦寺の堂塔



東塔　根本中堂

東塔について

東塔は最澄が最初に入山し「一乗止観院」を構えた場所で、三塔（東塔・西塔・横川）の中心に当たり、最も早くから発展しました。やがて西塔院などが分離独立し、独自の教団組織により運営されていくようになります。東塔には、比叡山の総本堂ともいうべき「根本中堂」を始め、文殊楼、大講堂、鐘楼、戒壇院などの堂が、杉の巨木の中に建っています。根本中堂は、仁和3年(887)にその堂容を整えますが、焼失と再興を繰り返します。織田信長の焼き討ちによる焼失後、豊臣秀吉の援助により、天正12年（1584）再建に着手し、5年後に完成します。しかし、大風で転倒し、寛永11年（1634）徳川家光の命により再建に着手、6年後に完成したのが国宝に指定されている現在の堂です。

根本中堂には最澄が刻んだという秘仏薬師如来が安置され、その前には開創以来途絶えたことのない「不滅の法灯」が灯し続けられています。



西塔法華堂　常行堂



大講堂　鎮壇具

西塔について

西塔は、最澄の弟子円澄らにより整備されました。釈迦堂を中心とした堂舎群と、延暦寺でも最も神聖な場所とされる、伝教大師廟所である浄土院があります。釈迦堂は、西塔の中心で、転法輪堂ともいい、比叡山に現存する最古の建物で貞和3年（1347）に建てられた三井寺の金堂を、豊臣秀吉の命により移したものです。また、堂の背後には弥勒仏の石仏が安置されています。

釈迦堂を見下ろす場所に、法華堂と常行堂が建ちます。この両堂は、ほぼ同型の堂を廊下でつないであることから俗に「弁慶のにない堂」と呼ばれ、法華三昧、常行三昧の道場となっています。この他、信長の焼き討ちから逃れた唯一の建物とされる瑠璃堂や、類例の少ない建造物である相輪樘という、高さ約10mの青銅製の相輪などが残されています。

平安時代の記録では、延暦寺の住僧の人数は、東塔で1813人、西塔で717人、横川で470人を数えたといいます。

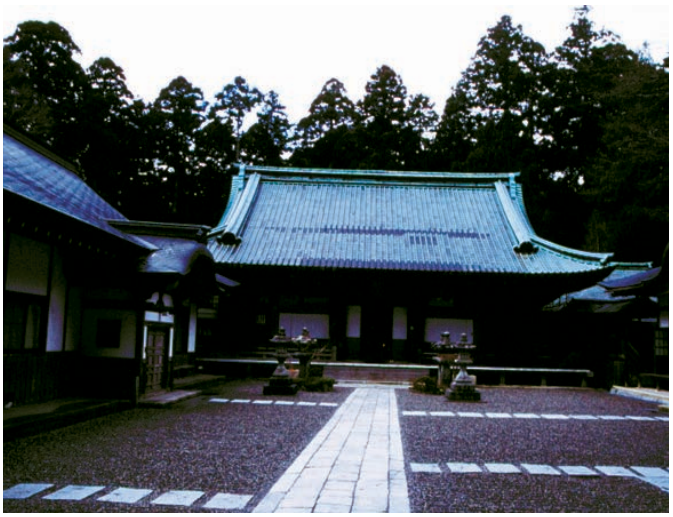
横川について

横川は、伝教大師の伽藍整備の構想には入ってはいませんでした。ここを開基したのは第3世座主慈覚大師円仁です。慈覚大師が横川の地に草庵を結び、法華経書写を納める小堂を建立したのが横川の始まりとされています。その十余年の後、根本観音堂（横川中堂）を創建して、横川発展の基礎を築きました。

根本如法堂は、天長年間に円仁が最初に建てた堂ですが、当時の建物はありません。しかし、大正12年（1923）に発掘を行ったところ、藤原期の経筒（きょうづつ）が発見され注目されました。この経筒は国宝の指定を受けています。現在、この跡には新しい塔が建立され、写経が納め続けられています。横川の中心、横川中堂は、首楞厳院とも呼ばれ、円仁が嘉祥元年(848)に建立したものですが、当初の建物は失われ、現在は復元された堂が建っています。そのほか、横川では最も古い建物として、元三大師良源を祀る四季講堂があり、毎月3日の大師の命日には大勢の参詣者が訪れます。



横川　楞川中堂



横川　四季講堂

無動寺谷

根本中堂の南約1kmにあり、相応和尚創建の明王堂を中心とし、北峰回峰の根本道場として発展しました。比叡山の最も南にあることから、叡南（えなみ）、南山（なんざん）とも呼ばれています。本堂の他に鐘楼、白山社、法曼院、南山坊、護摩堂、宝珠院、大乗坊、玉照院、建立院、弁天堂などの堂舎が狭い範囲に密集して建ち並んでいます。

無動寺谷を整備した相応は、円仁の弟子で、12年間山に籠もり修行をし、後に円仁より不動明王経等の伝授を受け、根本中堂の薬師如来の示現に従いこの地に草庵を結びます。その後、苦行を重ね、比良山中の葛川に参籠をし、生身の不動明王を感得したことで貞観7年（865）に仏堂を建立し、自ら彫刻した不動明王を安置したと伝えられます。これが現在の無動寺不動明王堂の前身で、本流玉泉房流回峰行の根本道場としての基礎が造られました。

相応は、修行僧により今も続く、千日回峰行を始めとする回峰行の開祖として、深い信仰を集めています。



無動寺谷　弁天堂

横川飯室谷

飯室谷は、横川の別所で、「いむろ」ともいいます。横川中堂の南東を約1.5㎞くだった山麓の近くに位置します。飯櫃童子（ぼんきどうじ）が老仙人の姿となって、慈覚大師に食事を献じたという伝説に由来する飯室寺が建立されました。飯室谷の本堂は不動堂で、恵光坊流飯室回峰行の根本道場となり発展し、多くの堂舎を擁していましたが、その多くは失われ現在に至っています。

恵光坊流飯室回峰行は、天正18年(1590)以来途絶えていましたが、昭和62年に酒井雄哉師が完全復活しました。無動寺明王堂を本拠とする回峰行が、無動寺−東塔−西塔−峰道−横川−八王子−日吉大社−無動寺とするのに対し、飯室回峰行は、飯室−日吉大社−無動寺坂口−日吉大社−八王子−悲田谷−東塔−無動寺−大比叡智証廟−西塔−峰道−横川−飯室とし、比叡山高僧の廟所を巡拝する箇所の多いことが特徴で、その距離は40㎞にも及びます。



安楽律院



松禅院



延暦寺から見た琵琶湖

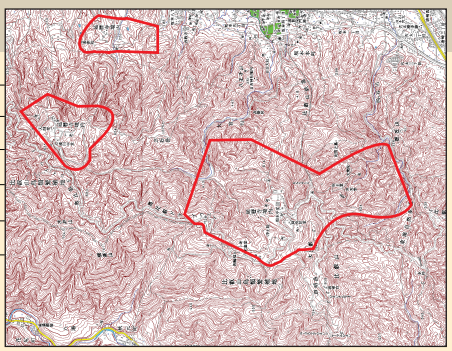
関連する文化財

日吉神社境内（大津市）	学習シートNo.009
比叡山延暦寺里坊庭園（大津市）	学習シートNo.077
高野山（和歌山県高野山町）	空海が開いた真言宗の本拠地
天台山（中華人民共和国）	中国浙江（せっつこう）省台州府にある天台宗の聖地

もっと深く知りたい

比叡山国宝殿	☎077−578−0001	大津市坂本本町4220
大津市歴史博物館	☎077−521−2100	大津市御陵町2−2
琵琶湖文化館	☎077−522−8179	大津市打出浜1−1
京都国立博物館	☎075−541−1151	京都市東山区茶屋町527
東京国立博物館	☎03−5777−8600	東京都台東区上野公園13−9
奈良国立博物館	☎0742−22−7771	奈良市登大路町50

延暦寺境内へのアクセス JR湖西線　比叡山坂本駅下車
京阪電鉄石坂線　坂本駅下車　比叡山ケーブル



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月